

クラウドの安全利用を促進するための CASBを用いた業務設計と運用

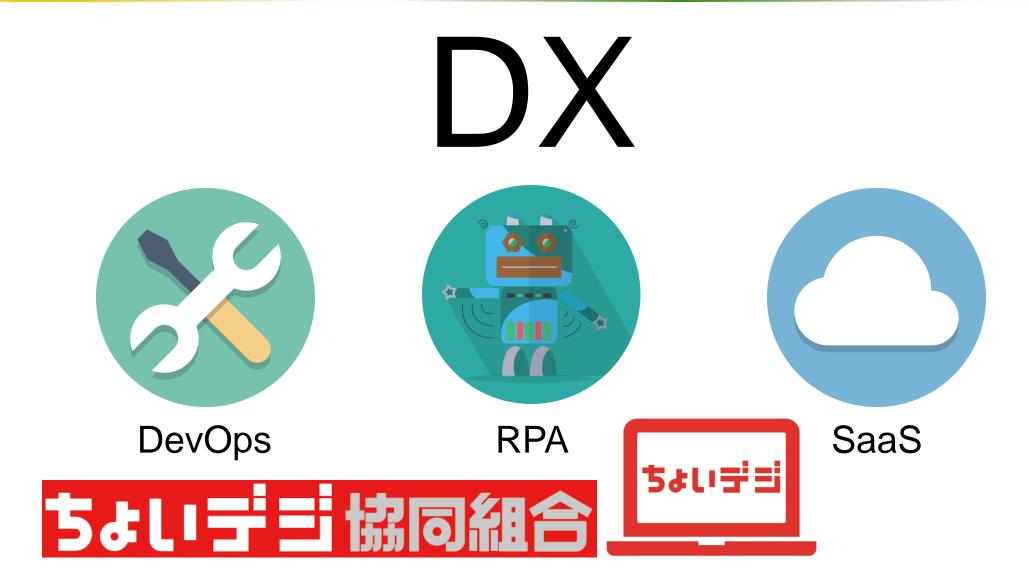
2019年11月7日

渡辺 慎太郎/サイバーセキュリティ推進部 CISA, CISSP, GCIH, GCFA, 産業技術大学院大学認定登録講師

株式会社ジュピターテレコム

コノゴロ都二ハヤル物





クラウド統制の不幸なケース(1)























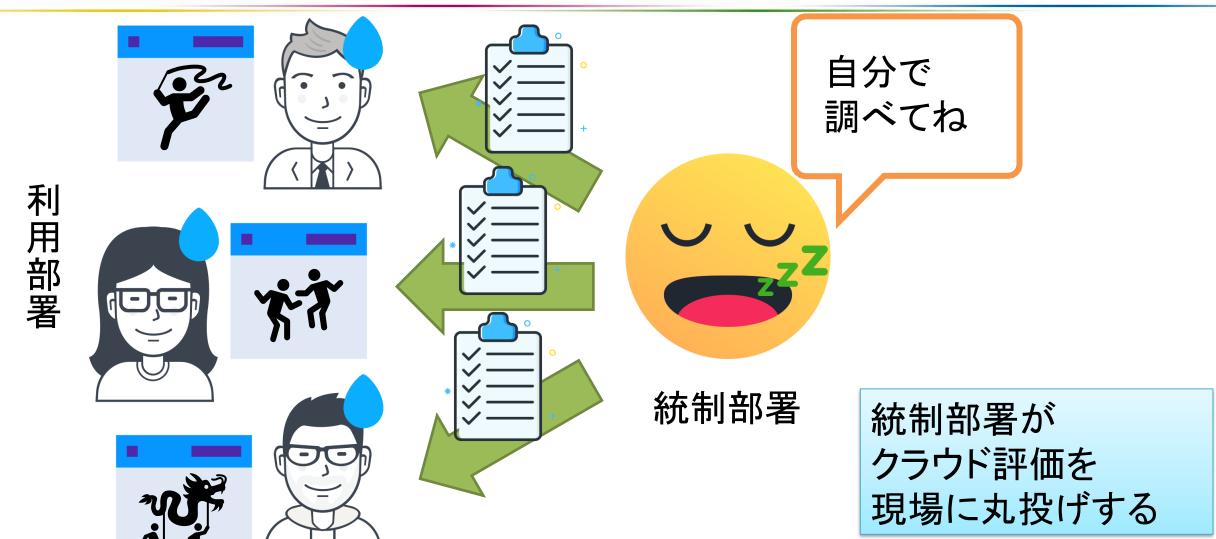




クラウド評価依頼が 多すぎて統制部署が さばききれない

クラウド統制の不幸なケース②







坡労馬

きょうの話題



- クラウドサービスを社内で安全に使うための仕組みづくり
 - > 手順と体制
 - ▶監視の実際
- おことわり
 - ▶ 発言は個人の見解であり、所属組織を代表するものではありません
 - ▶本日の「クラウド」は主にSaaS/ASPを対象としており、 PaaSやlaaS上のセキュア開発・運用は内容に含みません



ケーブルテレビ事業

J:COM TV

J:COM NET

J:COM PHONE

J:COM 電力

J:COM MOBILE



メディア事業



















会社概要



会社名	株式会社ジュピターテレコム(J:COM)
本社所在地	東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館
代表者	代表取締役会長 石川 雄三 代表取締役社長 井村 公彦
設立年月日	1995年1月18日
売上高	7,300億円(連結)(2018年3月期)※IFRS
従業員数	グループ総計 17,294名 (2019年2月末時点)
株主	KDDI株式会社 住友商事株式会社

© Jupiter Telecommunications Co., Ltd.

クラウドの脅威源はどこにあるか?



- ① サービス事故
 - ▶ クラウド型レンタルサーバー「Zenlogicホスティング」が 4日間にわたり全面停止(laaSの例、2018年7月)

https://ascii.jp/elem/000/001/709/1709251/

▶ 大容量ファイル送信サービス「宅ふぁいる便」における 480万件の顧客情報流出(2019年1月)

https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1901/28/news084.html

▶ 平文でパスワードを管理していると思われるネット事業者が14%。 フィッシング対策協議会調べ(2019年5月)

https://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/1185500.html

クラウドの脅威源はどこにあるか?



- 1 サービス事故
- ② 利用者の不適切使用(abuse)
 - ▶風呂敷残業
 - ▶ 退職者によるログイン
 - ▶不用意な露出



ウイルスチェックのつもりで情報漏えい? VirusTotalの使い方に注意

https://www.itmedia.co.jp/enterprise/articles/1603/14/news104.html

どんな手を打つか?



● クラウドの脅威に対する対策の例

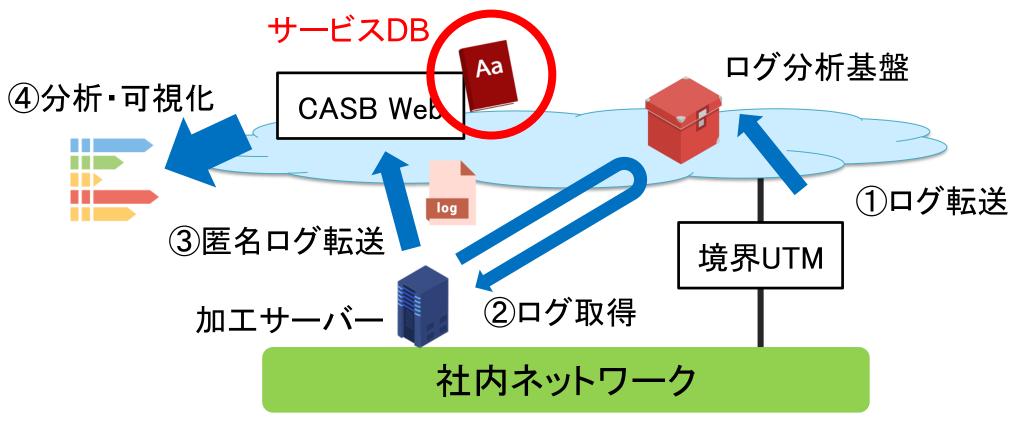
	①サービス事故	②不適切使用
事前規制	格付に基づく選別	ID連携の強制
事後チェック		未届け利用の発見 アップロードの監視

CASBが役に立つ領域

CASBシステム設置方式の一例

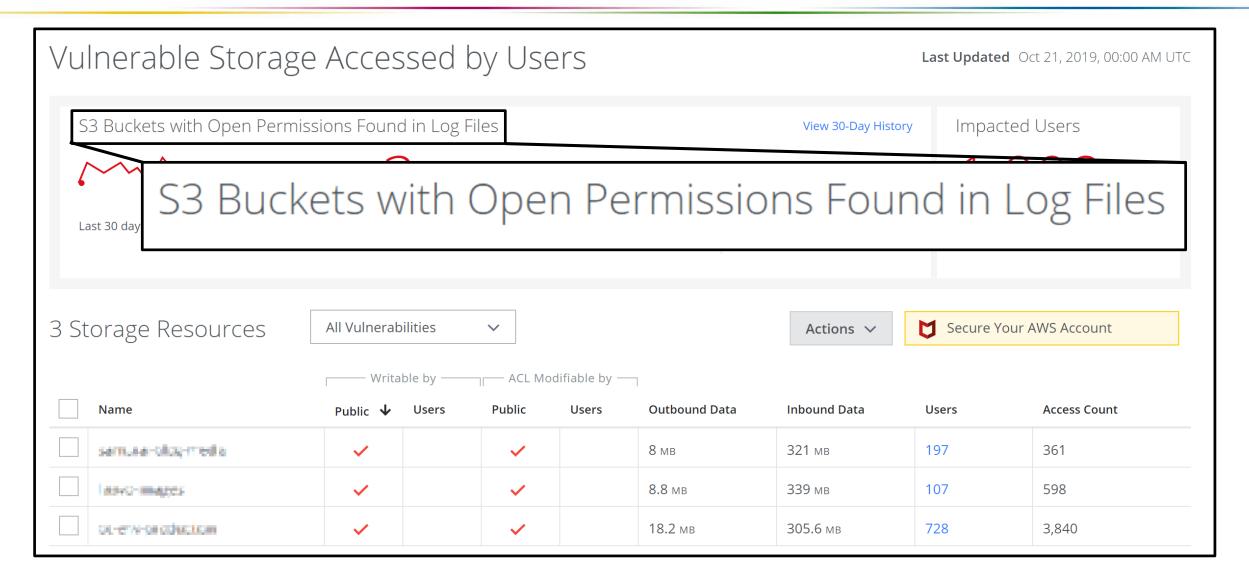


● 我々にとってのCASB: サービス格付機関 兼 利用状況可視化ツール



インテリジェンスとしてのCASB





どんな手を打つか?(再掲)

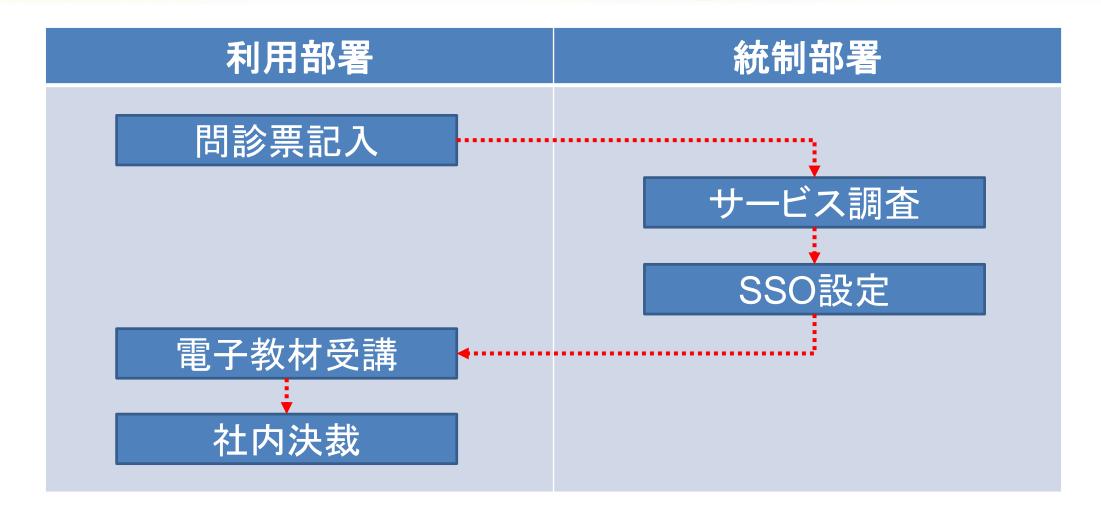


● クラウドの脅威に対する対策の例

	①サービス事故	②不適切使用
事前規制	格付に基づく選別	ID連携の強制
事後チェック	格付変化の追跡	未届け利用の発見 アップロードの監視

利用開始までのフロー(正常系)

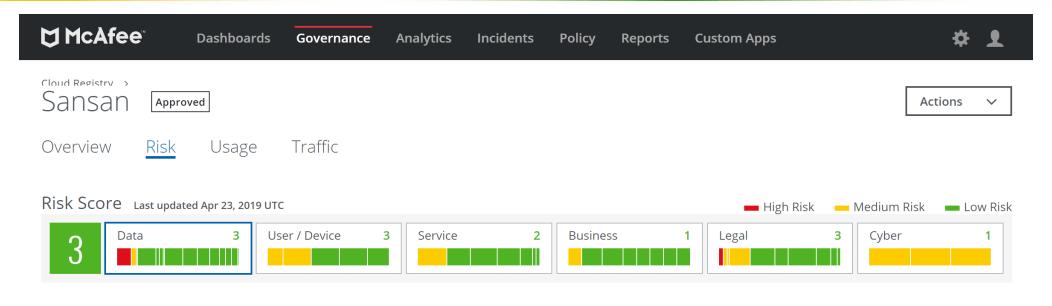






- 予防接種を手本にする
 - ▶ 20 問以内にする
 - ▶選択式にする
 - ▶選択肢に「不明」を入れる
- 問診票はワークフローに乗せる
 - ➤ Excelはやめましょう





Data Risk: 3

	Category	Attribute	Value	↓ Score	Attribute Weight	Weighted Score	Review Date	Notes
>	Data Sharing	File Sharing Support	✓ Yes	80	12%	30	Apr 2019	+
>	Data Loss Protection	Integrated Data Loss Prevention (√ No	60	4%	10	Apr 2019	+
>	Encryption	Signature Algorithm of SSL Certific	SHA256	With RSA En 30	1%	1	Apr 2019	+
>	Data Retention	Data Retention Policy Upon Accou	15 to 30	days 20	15%	11	Apr 2019	+
>	Encryption	Data Encryption in Transit	✓ TLS 1.0	20	3%	2	Apr 2019	+
			TIC 1 1	10				



- McAfeeの資源を活用する
 - → 台帳に載っていないサービスは即座にリクエスト
 - MVISION Cloudの長所は、応答が迅速な点(だった)
- McAfeeの権威を活用する
 - ▶リスク値の悪いものは許可しないと宣言しておく
 - ▶リスク値を盾にしてサービス事業者に改善を促す

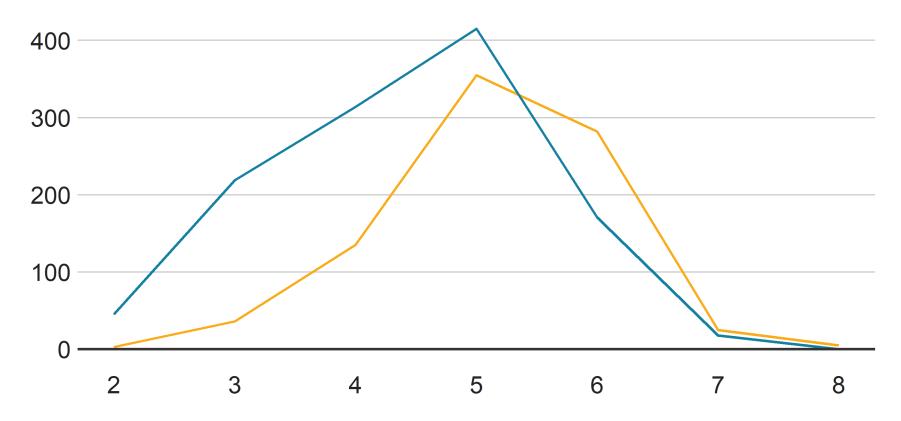
参考)日本のクラウドサービスは安全か?



Risk Score Distributions

grouped by the location of Business HQ

—Privacy Friendly Countries—USA

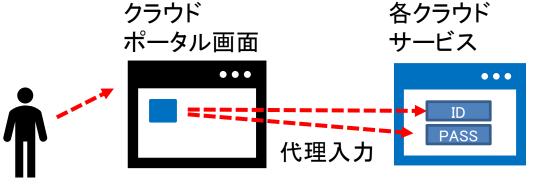




● User / Device欄で、可能なID連携手法がわかる

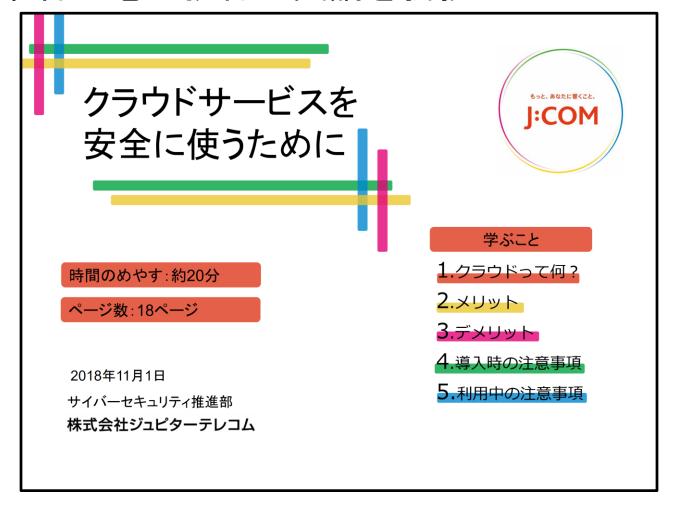
Multi-factor Authentication	✓ Yes
Identity Federation Method	SAML & OAUTH
Enterprise Identity (Integration With	✓ Yes

● ID連携に非対応のサービスには、フォーム代行入力で 疑似的にSSOを実現(利用者にパスワードを教えない)



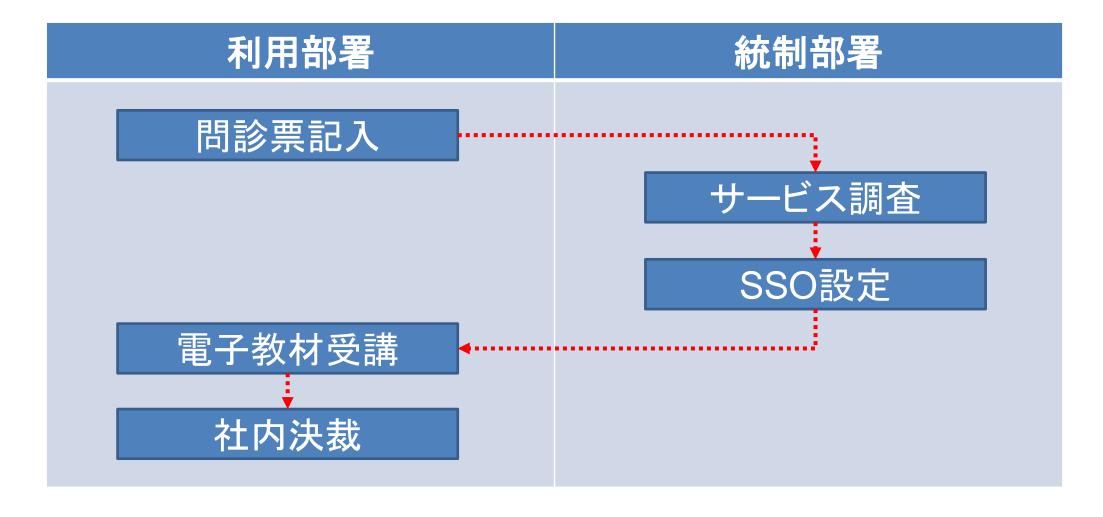


● 稟議書の起案者に電子教材の受講を義務づける



利用開始までのフロー(再掲)





ルールを作り、説明する



第1章 ク	フラウドサービス利用の遵守事項 フラ ウドサービス利用の遵守事項
第1条	遵守事項
第2条	クラウドサービス管理責任と役割
第3条	クラウドサービス利用のモニタリング及び停止
第2章	クラウドサービスの選定
第4条	実施手順
第5条	クラウドサービスのテスト利用
第6条	クラウドサービスの評価
第3章	クラウドサービスの利用
第7条	クラウドサービスの本利用
第8条	クラウドサービスの棚卸
第9条	クラウドサービスの契約終了

定着を見るため 内部監査の 質問項目に 加えてもらう

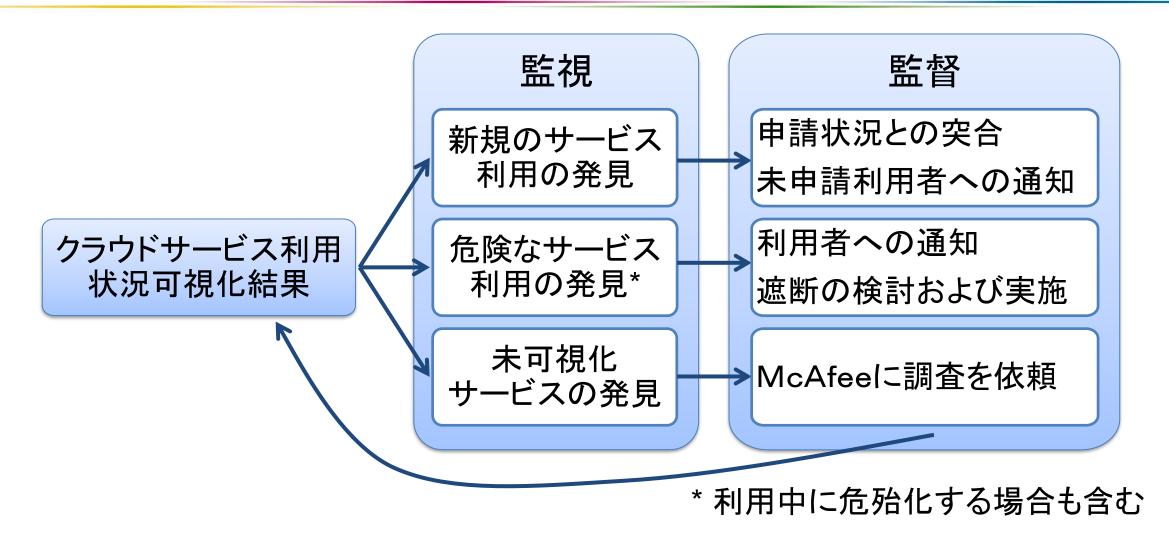
利用開始後の運用



	①サービス事故	②不適切使用
事前規制	格付に基づく選別	ID連携の強制
事後チェック	格付変化の追跡	未届け利用の発見 アップロードの監視

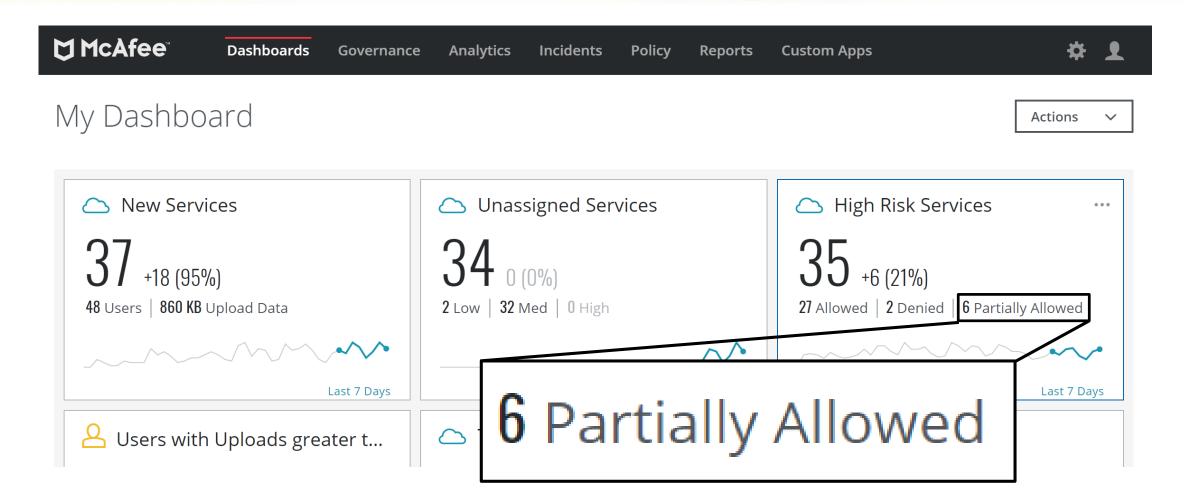
格付変化の追跡/未届け利用の発見





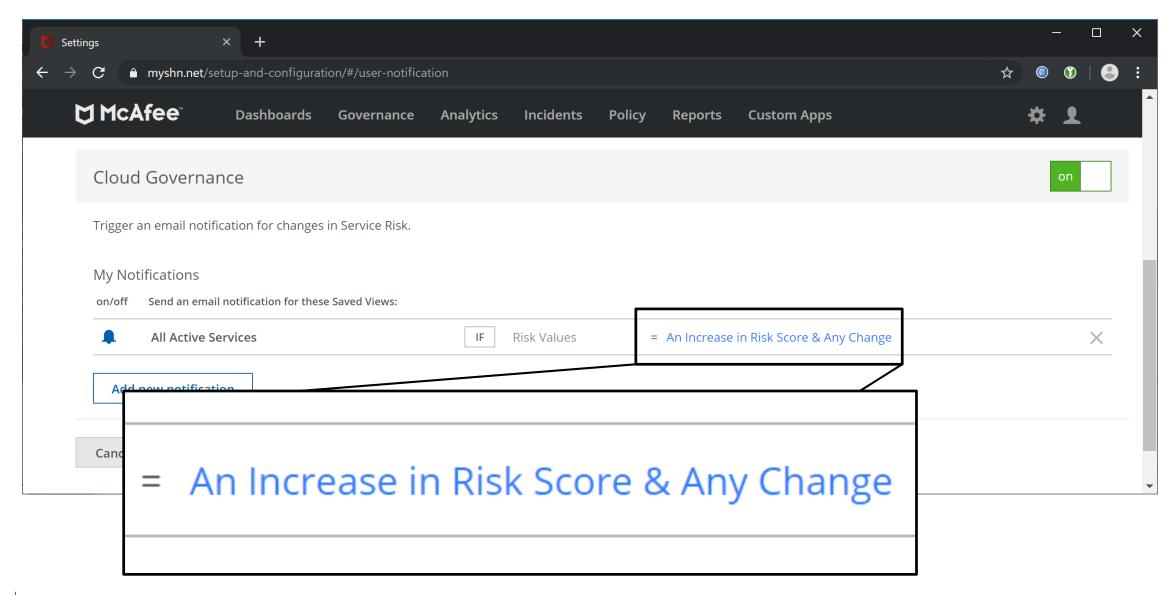
新規サービス利用の発見





リスク値が変化したときに通知させる





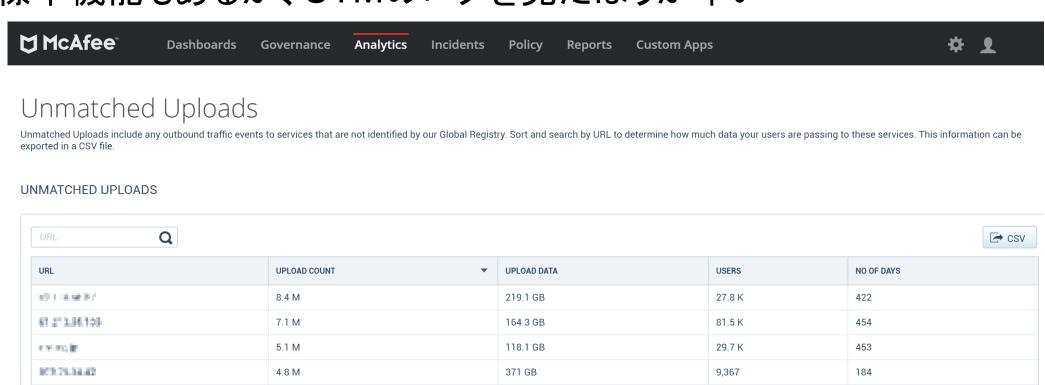
台帳に載っていないサービスを見つける

4.8 M

4.3 M



● 標準機能もあるが、UTMのログを見たほうが早い



393.9 GB

101.3 GB

9,397

24.3 K

185

453

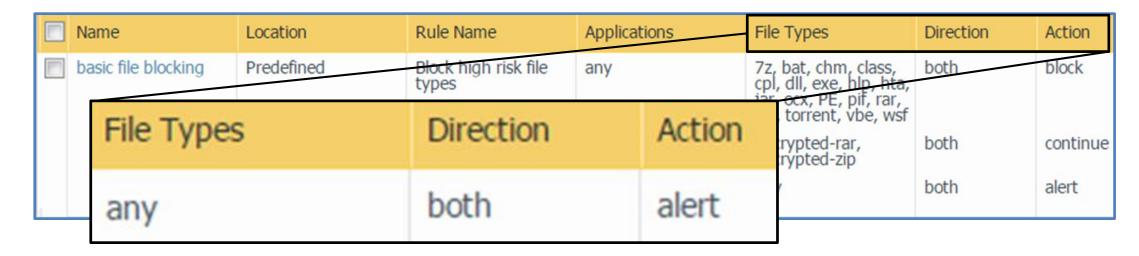
16(3.79)34.47

heart water a regar

参考)PAN社のData Filtering機能と組み合わせる



● ファイルの持ち出しをIDPSのログに記録させ、相関分析する



Create Best Practice Security Profiles for the Internet Gateway

https://docs.paloaltonetworks.com/best-practices/9-0/internet-gateway-best-practices/best-practice-internet-gateway-security-policy/create-best-practice-security-profiles

利用開始後の運用(再掲)

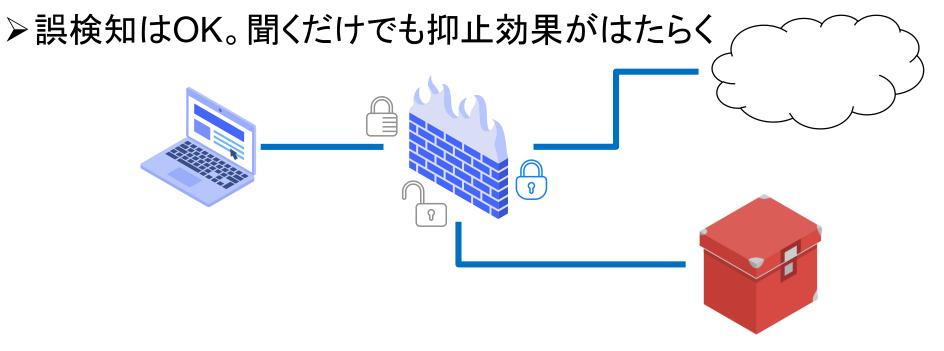


	①サービス事故	②不適切使用
事前規制	格付に基づく選別	ID連携の強制
事後チェック	格付変化の追跡	未届け利用の発見 アップロードの監視

アップロードファイルを監視する



- SSL/TLSを復号し、パケットを取得する
- ファイルを検査し、不審なら本人 and / or 上司に聞く



ネットワークフォレンジック装置

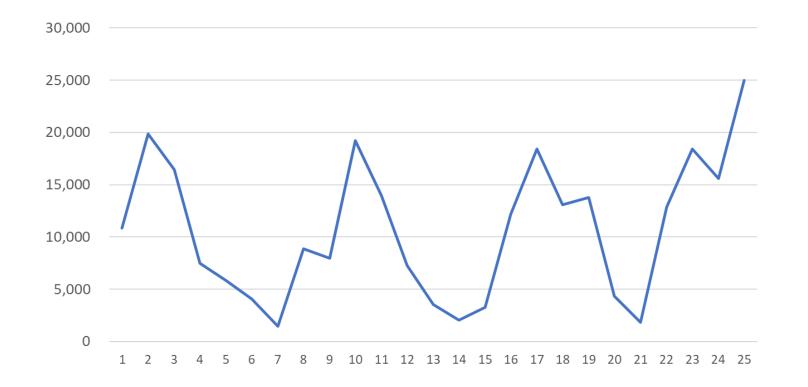
どうやって効率化するか?



- 検査対象を減らす
 - ▶ 方法1 カテゴリーによるブロック
 - Online Storage
 - Webmail など



過剰ブロックの発生



どうやって効率化するか?



- 検査対象を減らす
 - ▶ 方法2 HTTPへッダーを見る アップロードに関係するHTTPリクエストへッダーの例

- Content-Length
- Content-Range
- Transfer-Encoding (ここにはサイズがない)

どうやって効率化するか?



- 検査を自動化する
 - ▶ファイルの中身を検査するツールは複数存在
 - クレカやマイナンバーなどは容易
 - ・ 個人情報は?

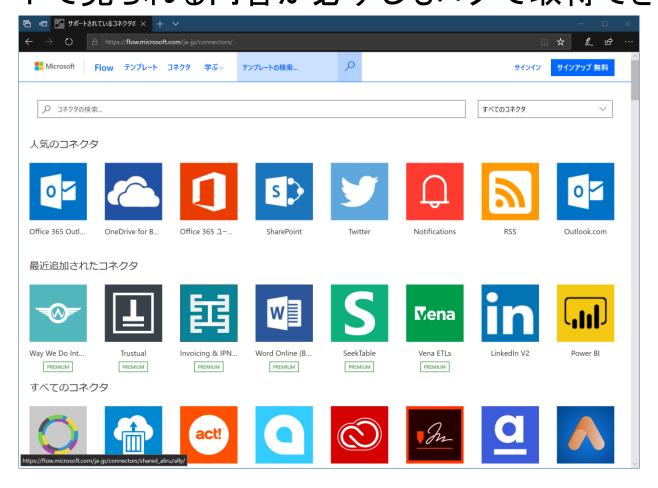


- ▶ 方法1 セグメントを分離する
 - 別セグメントにアップロード専用ブラウザーを用意し、 ファイルを別セグメントのサーバーにコピーする
- ▶ 方法2 ネットワークフォレンジック装置を使う
 - パケットからファイルを自動抽出する

課題① Office 365の進歩についていけるか?

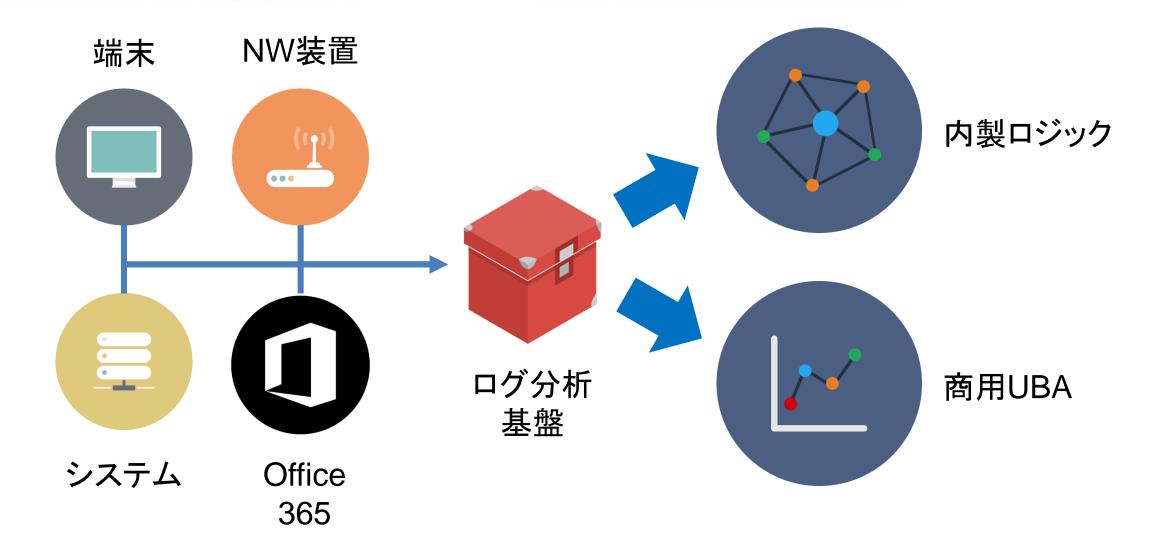


● 企業内ネットワークを通過せずデータの授受ができる▶ダッシュボードで見られる内容が必ずしもログで取得できない



参考) 当社の内部不正監視

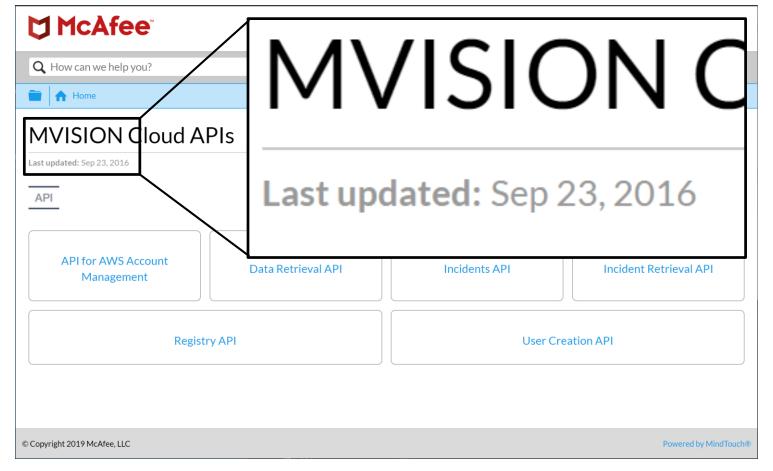




課題② もっと自動化できないか?

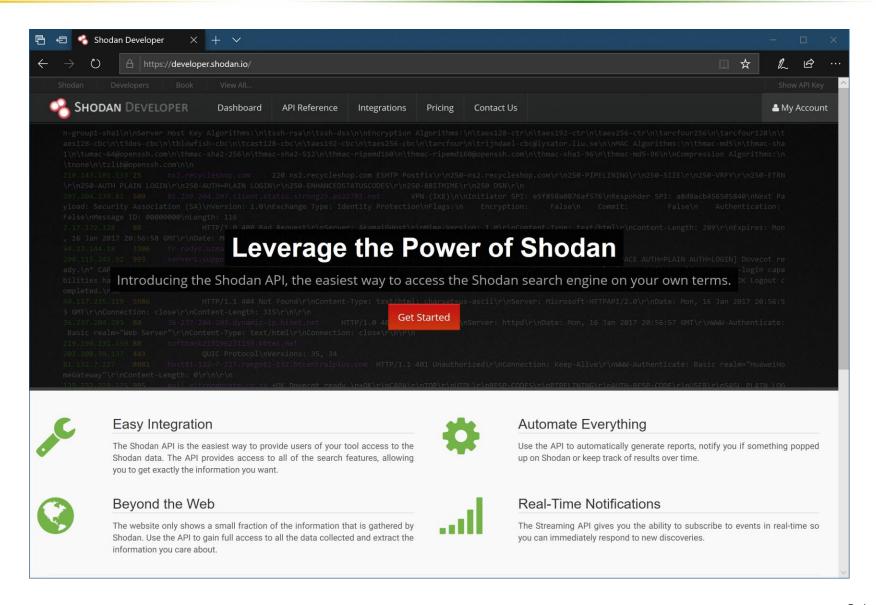


- CLIで操作したい
 - ▶ 取得系はあるのだが、更新系がない



参考)APIに優れる情報提供サービスの例





参考)日本でポート5555番が空いているホストのAS順は?



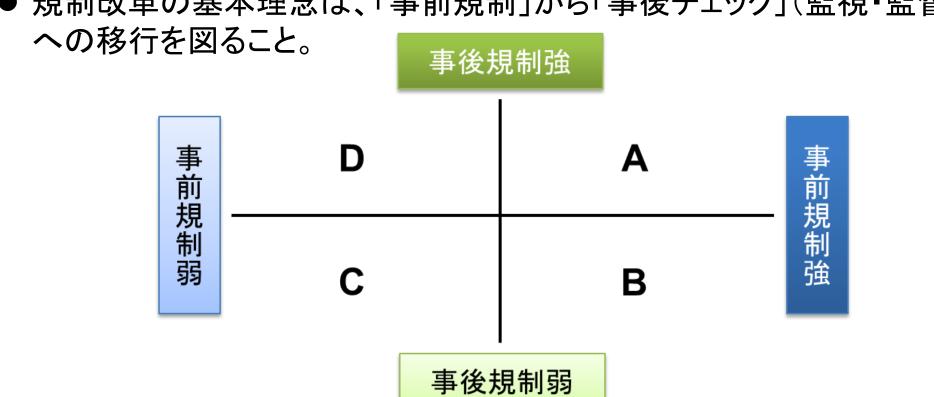
●R言語による10行サンプル

```
response <- httr::GET("https://api.shodan.io",</pre>
                path = "shodan/host/search",
                query = list(
                   key = SHODAN_API_KEY,
                  query = "country:JP port:5555",
                  facets = "asn:100"
results <- jsonlite::fromJSON(httr::content(response, as = "text"))
dplyr::as tibble(results$facets$asn)
```

課題③ 事前審査を簡素化できないか?



● 規制改革の基本理念は、「事前規制」から「事後チェック」(監視・監督)



内閣府 総合規制改革会議「中間とりまとめ」(2002年) https://www8.cao.go.jp/kisei/siryo/

参考)タイプBの得失



	メリット	デメリット
タイプB	事前規制があるので行動規範を示し得る事後規制をあまりしないので運用コストが大きくなり過ぎない	 ●規制が尻抜けになる ●事後規制が弱いのでルールの裏をかく者が続出し正直者が馬鹿を見ると皆がルールを建前視してしまう ●ルールの建前化を防止しようとインフォーマルな手法(行政指導等)に頼るとルール運営が不透明になる ●事前規制の存在が関係者の創意工夫を削ぎかねない

事前規制と事後規制の類型化 https://www8.cao.go.jp/kisei/siryo/020723/4-b.pdf

参考)タイプDの得失



	メリット	デメリット
タイプロ	事前規制に要するコストがからない一定の部分を除き規制がないので関係者の創意工夫の余地が大きい事後規制ルールが行為規範となる	 事後規制に要するコストがしばしば大きい 事後規制は事前規制ほど徹底できないことが多い 一罰百戒の効果を上げるため制裁措置を高めると不公平感を生みかねず、また違反者の更生を阻害しかねない 司法機構の強化の反面として行政機構の弱体化を招きかねない

事前規制と事後規制の類型化 https://www8.cao.go.jp/kisei/siryo/020723/4-b.pdf

おわりに



- ◆ クラウドサービスを安全に使ってもらうためには 事前規制と事後チェックとを上手に組み合わせた 仕組みづくりが大切です
 - ▶CASBをインテリジェンスとして使えば、工数が削減できます
- ■ユーザー企業も、サービス事業者に対する要求を通じ、 日本のセキュリティの向上に寄与できます
- 我々の取り組みは始まったばかりです。 ぜひみなさんの取り組みもお聞かせください。 WatanabeShint@jupiter.jcom.co.jp